

# プラチナム・ジュビリー

農林中央金庫 ロンドン支店長 吉田健司

先日、ロンドンの中心部メイフェア地区のあるレストランを出た際に建物の外壁にある記念碑に気づいた。「1926年4月21日、ここ17 Bruton Streetにある邸宅でエリザベス・アレクサンドラ・メアリー・ウィンザーが生まれた」と書かれてある。その地は現女王のエリザベス2世の生誕地だったのである。彼女は幼少時代、リリベットと呼ばれ、国内外から広く人気があったが、数奇な運命により10歳にして父が急に国王となり、長女であることから王位継承順位1位となった。そして1952年2月6日、訪問先のケニアで父国王の急死が知らされ、彼女は25歳にして若き女王となった（このシーンはNetflixの人気ドラマ「The Crown」の第2話で登場するので見た方も多いと思う）。今年2022年はエリザベス2世女王の即位からちょうど70年にあたる「プラチナム・ジュビリー」の年であり、6月1週目を4連休とし、バッキンガム宮殿周辺でのパレードやコンサートなど祝賀行事が盛大に執り行われた。コンサートのオープニングは恒例の「クイーン」が務め、ブライアン・メイのギターがお祝いムードを盛り上げた。

英国では、女性君主の在位期間は長く、しかもその間、繁栄の時代が続くといわれている。過去には、スペイン無敵艦隊を破った時代のエリザベス1世（1558～1603、在位44年）、世界中に支配地を広げ大英帝国を築いた時代のビクトリア（1837～1901、在位63年）などがあるが、エリザベス2世（1952～現在、在位70年）は、英国王室史上最長の在位期間を更新し続けている。

英国王室は最近でもいろいろなスキャンダルに見舞われたが、英国がBrexitを経ながらもグローバルに存在感を発揮し続けているのは、まさにエリザベス2世女王の功績であろう。

ちなみに5月24日、ロンドンでは「エリザベス・ライン」と呼ばれる新鉄道路線が予定から約4年（！）遅れで遂に開通した。自分の名前がついた新路線の記念式典に、御年96歳の女王はきれいな黄色いスーツを着て元気に登場した。この路線はロンドンの東西を効率的かつ高速で結び、弊庫ロンドン支店のあるLiverpool Streetにもきれいな新駅が誕生している。支店の職員からも、通勤が本当に便利になった、という声が多く聞かれている。開通が「プラチナム・ジュビリー」に間に合ったのも、やはり女王がもつ見えざるパワーかもしれない。

便利なものが誕生する一方で、欧州全域ではインフレが加速し、またウクライナでは戦争が続いている。先はどうなるかわからない世界をコロナで経験したばかりだが、また別のかたちで全く先の読めない世の中が続く。最後にこう祈って終えようと思う。

God Save the Queen！ そして God Save the World！